

## 平成 2 8 年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	地域の社会科教員と大学教員の組織的連携による主題的地域教材の提供
2 事業推進者等	(所属部局) 人文・社会教育学系 (責任者職名・氏名) 教授 松田慎也 (共同実施者職名・氏名) 教授 志村喬ほか社会系コース所属全教員
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 新潟県社会科教育研究会 (担当者職名・氏名等) 前会長 望月 正樹(妙高市立妙高小学校長) 現会長 陸川 晃(上越市立大潟中学校長)
4 事業の趣旨・目的	本事業は、地域の社会科教材の充実を図るとともに、大学教員との協働的教材開発を通し地域の社会科教員の実践力向上を図ることを目的としている。事業内容は、新潟県社会科教育研究会と本学社会系コースとの連携に基づき、主題的地域教材を平成 27 年度に続き開発し、上越地域の全小中学校へ配布するものである。なお、本事業は下記のように成果をあげてきたが、継続のためには本地域貢献事業の支援が必須である。
5 事業活動報告	昨年度の成果をふまえテーマを「鉄道 2」の下、上越地域を対象にした主題的地域教材を協働開発し地域の全小中学校へ開発教材(冊子)を配布した。 4～5 月：主題・研究分担の具体的決定 6～10 月：分担別現地調査・教材開発 11 月：開発教材の全体中間発表会(現地討議を含む) 11～1 月：補足調査・報告書原稿作成 2 月：授業活用研修会 3 月：成果報告書(教材集)刊行・上越地域の全小中学校へ配布 *その他、各分担班・個人にて調査及び研究打ち合わせを適宜実施
6 本事業で得られた成果	成果物(教材)を上越地方全小中学校へ配布することで、地域の教育実践向上へ事業成果を還元することができた。同時に、参加した教員・学生らの実践的教育にも寄与した。とりわけ社会系コース修了教員や現職派遣院生の参加は、これまでの現場と社会系コースの実践的研究交流成果を示唆するとともに一層の展望が見いだすことができた。
7 その他(成果物等の名称)	次の成果物(A4 版 全 89 頁)を刊行し、上越市・妙高市・糸魚川市の全小中学校へ配布した。 上越教育大学大学院社会系教育実践コース教員(代表 松田慎也)監修・新潟県社会科教育研究会協力『「みち」から探る地域の過去・現在・未来—鉄道その 2—』上越教育大学

提出期限：平成 2 9 年 4 月 1 4 日(金)